



すべての子ども一人一人に、 最もふさわしい教育を

2021年度「徳島県GIGAスクール構想」スタート!

編集・発行: 徳島県教育委員会教育政策課 徳島県徳島市万代町1-1 電話 088-621-3115 FAX 088-621-2879

教育クラウドサービス



写真はイメージです。© visual supple/amanaimages

令和時代の 新しい教育スタイルへ 「徳島県GIGAスクール構想」

今やスマートフォンは1人1台の時代に。仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場面でICTは欠かせないものとなっています。それに拍車をかけるように、2020年は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、リモートワークや在宅ワークの導入が急速に進んだ一年となりました。

学校教育では、「情報活用能力の育成」や「ICTを活用した学習活動の充実」に向け、「児童生徒の1人1台端末」をはじめとするICT環境を整備することを目的として、全国知事会などの強い働きかけが実り、国・地方が心を一つに推進を図る「GIGAスクール構想」が打ち出されました。

いち早く、徳島県では、全国屈指の光ブロードバンド環境を活用し、児童生徒1人1台端末、各普通教室へのWi-Fi環境などを一体的に整備しています。これらをフルに活用することにより、児童生徒一人一人に応じた「個別最適化された学び」を実現するとともに、Society 5.0時代に活躍する「未知を切り拓く人材の育成」を全国に先駆けて実践します。

Q. 「GIGAスクール構想」って?

A. 児童生徒1人1台端末と、高速大容量の校内通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたち一人一人に個別最適化された、個々の資質・能力が一層確実に育成できる「教育ICT環境の実現」をめざす構想です。

要するに、デジタル革新が進むSociety 5.0時代に生きる子どもたちが、鉛筆やノートと同じように「自分専用のパソコンやタブレット端末」を持ち、授業で活用することが、当たり前となる環境を整えていくということです。

GIGAは、Global and Innovation Gateway for Allの略。

Q. どんな児童生徒を対象にしているの?

A. 国のGIGAスクール構想の対象は、国公立小中学校が中心です。加えて徳島県内では、国の構想では対象外となっている公立高校、特別支援学校高等部、私立高校等の生徒も対象とし、1人1台のタブレット端末を整備・貸与します。これにより、小中高一貫した新たなオンライン教育環境を全県的に構築することとしています。

Q. どのように活用するの?

A. 1人1台のパソコンやタブレット端末を使用して、

- インターネットを活用した調べ学習・交流学习
- 授業支援ソフトを活用した思考の可視化や意見の共有などの協働学習
- AI・ビッグデータを活用した、一人一人の理解度・教育ニーズに応じた学校や家庭での個別学習
- Web会議や学習動画などを活用したオンライン学習
- 災害時や感染症発生時における臨時休業などの際にインターネットを活用したオンラインでの在宅学習などの新たな学びが実現できます。

Q. インターネット上のトラブルに巻き込まれないか心配です。

A. 子どもたちが、インターネット上のトラブルに巻き込まれたり加害者になったりしないように、徳島県では、PTA総会や保護者会などにおける家庭での協力依頼や、学校や保護者、地域の方々にも活用できる、徳島県独自のデジタル教材を公開するなどの取り組みを行っています。

「徳島県GIGAスクール構想」についてはこちら

専用ホームページ <https://gigaschool.tokushima-ec.ed.jp/>

お問合せ: 徳島県立総合教育センター

電話: 088-672-5000 FAX: 088-672-5005



オンライン教育への取り組み

ICTの活用により、オンライン教育を含む新しい教育方法に取り組むモデル校8校(市町村立学校5校、県立学校3校)の様子を紹介します。



写真はイメージです。© visual supple/amanaimages

上板町立
高志小学校

学校でも家庭でも同じアプリを使うことで、 学習そのものに集中できる

授業支援アプリを用いた授業づくりを行うことで、それぞれの意見や回答をその場で共有することができるため、児童からは「自分の意見を比較しやすくなった」「今までは手を挙げて意見を言うことが恥ずかしかったが、積極的に発言できるようになった」「皆が平等に意見を出し合えるので、積極的に授業に参加できるようになった」などの感想が寄せられています。週末や冬休みは、タブレット端末を自宅に持ち帰ってドリル学習にも活用。学校でも家庭でも、同じ授業支援アプリを使用することで、使い方を覚える時間が短縮され、学習そのものに集中できるよう、工夫しています。



最初は「緊張する」と言っていた子も、学習活動に応じて積極的に使いこなしています。

美馬市立
穴吹中学校

教科の枠を超えたノウハウの共有が、 生徒の応用力UPに

美馬市立木屋平中学校と一緒に開催した英語の研究授業や、美馬地区内の中学校が一同に参加する音楽交流会が「Web会議システム」を使うことで実現。授業支援アプリも学校生活に積極的に取り入れており、朝の学活前に一日の連絡事項を伝える際もタブレット端末を使用。授業の振り返りにも役立っており、「自分が間違えた問題がデータに残っているので復習しやすい」「画面上で勉強すると気が散りにくく、集中力が高まる」といった感想が寄せられています。「体育の授業で使った機能を英語の授業でも活用してみよう」など、生徒自身が創意工夫しながらICTの応用力を高め、それが自信とやる気につながっています。



理科の授業では実験結果をまとめるなど、それぞれの教科に応じて活用方法を工夫しています。

徳島県立
城東高等学校

徳島から世界へ羽ばたく 「グローバル人材」の育成をめざして

ICTを活用し、海部高校とつぎ高校とともに飯泉知事とのオンライン対話集会「新未来セッションNEO・2020」を開催。また、カナダ在住者との交流会のほか、姉妹校のフランス サン・ジョセフ校やインドネシアのASEAN日本政府代表部との国際交流もオンラインで実施。生徒からは「外国の授業がどのように行われているのかが分かり、考え方の違いや共通点も知ることができた。ICTを活用することで世界が近くなり、国際交流も気軽にできるようになった」といった感想が寄せられています。ICTの活用力を高めて、より主体的、対話的で深い学びが実現することで、城東高校がめざす「グローバル人材」の育成に役立っています。



オンラインによる国際感覚やコミュニケーション能力の向上に役立っています。

徳島県立
ひのみね支援学校

ICTの活用で新たな出会いや ふれあいが増加

タブレット端末を利用した遠隔学習や遠隔社会科学見学などを積極的に行い、児童生徒一人一人の障がいの特性や教育的ニーズに応じた実践的な取り組みをしています。例えば、「Web会議システム」を利用したリモートでの就業体験(高等部)として、5都県(東京都・福島県・埼玉県・長野県・愛知県)の特別支援学校の生徒とWeb会議を行ったり、徳島県庁の社会科学見学や交流及び共同学習(中学部)などを実施したりしました。生徒からは「今まで出会えなかった人に出会えたり、行けなかった場所に行くことができたりしてうれしい」等の声が挙がっています。また、新たな試みとして、文化祭や体育祭の代替大会はオンラインも使って開催しました。



リモート形式での交流及び共同学習により、学ぶ楽しさや意欲の向上につながっています。

阿南市立
桑野小学校

ルールを守りながら、 学ぶ楽しさを引き出す

紙に書いているような感覚で編集でき、リアルタイムでの画面共有が可能な授業支援アプリを使用することで、児童からは「算数の図形問題が理解しやすくなった」「宿題でドリル問題を解くのが楽しくなった」といった声が寄せられています。タブレット端末を持ち帰り、家庭学習にも活用しており、その際には「他の人にパスワードを教えない」といった桑野小学校が独自で定めた活用ルールに従った利用を指導しています。冬休みはタブレット端末を使って、写真付きで日記をつけるといった新しい課題にも取り組みました。



グループ学習で自分の考えの発表や、他者の考えを共有するなどの活動にも活用しています。

三好市立
東祖谷小学校・中学校

小中一体の強みを生かし、 自律的ICT活用をめざす

小中一体型校舎で、教員とコミュニケーションを図りやすい半面、他の地域と距離があるため、交流範囲が狭いという問題点をICTで補い、広い世界とつながることが期待されています。例えば、小中同じ「音楽」をテーマに、小学校ではカメラ機能を使って鍵盤ハーモニカを演奏する様子を友達同士で撮影したり、中学校では歌う姿や英文音読を動画で撮影したりするという課題を通して、タブレット端末に親しみながら学習意欲を高めています。使用方法については「自分と友だちと端末を大切に」といった原則を徹底し、自分たちでルールづくりをするように指導。児童生徒からは「インターネットで広い世界とつながることができてうれしい」という声が挙がっています。



学校と子どもたちを結んだ、双方向でのオンライン学習にも取り組んでいます。

徳島県立
つぎ高等学校

専門学科に必要な資質能力の 育成に役立てたい

工業科と商業科を併設した専門高校で、これまでも県内で先駆けて整備された電子黒板などのICTを活用した教育活動に取り組んできました。今年度からは、クラウド型学習支援サービスを利用して、アンケート機能による生活状況調査、冬休みや週末の課題・解答の配信、確認テストの実施など、どのようにすれば生徒の学力を向上させることができるか、様々な教科や場面でICTの活用に取り組んでいます。来年度からは1人1台のタブレット端末が貸与されることで、より自主的に学習に取り組むことができ、基礎学力の向上と専門学科に必要な資質能力の育成に役立つと期待されています。



他にもAI(人工知能)を活用した英語4技能学習のeラーニングにも取り組んでいます。